香川大学×四国学院大学×善通寺市　実践型インターンシップ企画

Aチーム　感想
本インターンシップでは、市役所の方々と香川大学の学生と一緒に善通寺市について配布物を作成しました。この経験は非常に充実しており、実践的なスキルを身につけることができました。市役所の方々から写真の撮り方や、PRの仕方などを学び、それを配布物に反映させることができました。また、香川大学の学生とアイデアを出し合い議論し、創造的な成果物を作り上げるプロセスも楽しかったです。本インターンシップを通じて、将来のキャリアにも大いに影響を与える貴重な経験であったと感じました。
私は、今までインターンシップに参加したことがなく、自分にできるか不安でしたがやったことないことに挑戦したいと思っていたので思い切って参加しました。 挑戦したことで自分について知ることやチームで1つの目標に向かって活動していくことの難しさを学ぶことができたと思います。この企画について振り返って、目標を納得のいく形として完成させるためにメンバー間での連携が必要だと考え、コミュニケーション能力を持ち、活用することは重要な能力だと思い、私にとって課題の1つだと気づくことができました。 実際に活動してきたことで知識だけでなく経験もできて多くの学びがありました。ありがとうございました。
このインターシップは四国学院大学の学生だけではなく、香川大学の学生と協力する事となり、活動よりも先にメンバー同士で打ち解ける事からのスタートでした。そのため、特に私のチームは団結力を高める事に苦戦してしまった事が大きな反省点です。しかし最終的には苦戦を強いられながらも協力して作品を完全させる事が出来たため、いかに信頼関係を築き上げ、協力する事が大切なのかを学びました。 このインターシップでは、コミュニケーションを忘れずに、まずは団結力を高める事を大切にしていかなければならないということを学びました。
私たちは成果物としてポスターを出させて頂きました。私は他大学と共にひとつの成果物を出すということは初めてで色々な方に迷惑をかけたと思います。ひょっとしたら揉めていちばん先生方や関係者の方に迷惑をかけた班は私たちかもしれないと思うほどです。報連相の大事さを実感しました。 拙い点も沢山あり、反省点が沢山あるインターンシップでしたが、将来に活かすことのできる貴重な体験ができたと思っております。
人の目に留まるには、という事の難しさを再確認する経験になりました。 善通寺を活性化させるようなポスター、その上人に沢山見てもらえるような、目を引くポスターを作成しようと、試行錯誤を繰り返しました。 どういった層の人達に見てもらうのか、見てもらうための工夫は、香川大学の方々や市役所の方々、色んな人の意見を参考にして作り上げることが出来ました。私たちが普段、何気なく見ている街中のポスターや宣伝広告、チラシ、等のものは活動を経て、何気なく素通りするものじゃなく、足を止めて見るようになりました。1つ1つ、作成した人の気持ちが込められていて、意味と工夫が、作品として完成しているのだと今回の経験を通して実感しました。 それと同時に、社会の厳しさ、難しさも同時に経験する事が出来ました。責任ある中で、誰かと何かを創りあげることの難しさを痛感しました。 ですが全て含めて、とても貴重で糧となる有難い経験をさせて頂きました。これを活かして、今後の大学生活にも役立てて行きたいと思っています。
私は地域活性化の取り組みに以前から興味があったためこのインターンシップに参加しました。 このインターンシップには香川大学の方々も参加していたのですが、グループワークでは四国学院からは出ないような柔軟なアイデアが出てとても刺激になりました。また、班に別れて善通寺市の魅力を伝える広告物を制作する際には視野を広げて考えることや時間を厳守することの重要さを再確認でき、有意義な時間となりました。 今回のインターンシップで自分の視野の狭さや柔軟なアイデアを出せないという課題を見つけられたので今後はそのような課題を克服して能力向上に務めていこうと思います。

香川大学×四国学院大学×善通寺市　実践型インターンシップ企画

Bチーム　感想
今回のインターンは、大学や学年が異なる人同士でひとつの紙媒体を作るという困難な取り組みでした。しかし、何度も話し合いを重ね、各々の得意なことを生かして作業を行うことで、無事「トコトコぜんつうじ」という絵本が完成しました。 特に、話し合いの中で、ターゲットを「ファミリー層」に絞ると決定したことが、この絵本の制作のターニングポイントだったと思います。ターゲットが明確になったことで、掲載すべき情報の取捨選択がしやすくなり、絵本のデザインや文章のテイストもスムーズに決定することができました。 今回の経験から、情報発信において、自分たちが発信する情報の受け手を想像することが何よりも重要で、どんな人に向けて情報を発信したいかを明確にしておく必要があるということを学びました。現在、卒業研究で紙媒体を使った情報発信を行っているので、この経験を生かして取り組みたいです。
善通寺市インターンシップでは、普段なかなか話す機会が少ない香川大学の皆さんと交流、協力して1つの成果物を作り上げるという貴重な体験をさせていただき、大変勉強になりました。お忙しい中対応してくださった善通寺市役所の方々やご指導いただいた教員、指導員の方に深く御礼申し上げます。名刺型にするか冊子型にするか、と意見が2つに分かれた時は不安でしたが、非常に穏やかに話し合いが進められ、最終的にそれぞれの意見を最も多く汲んだ「名刺サイズの絵本型パンフレット」に話が纏まった時は本当に嬉しかったです。進行を務めてくれた方、穏やかに意見を纏めてくれた方、絵を描いてくれた方、写真を撮ってくれた方、いろんな役割をひとりひとりが担ってくれたからこそ完成させることができたのだと思いました。B班の皆さん、本当にありがとうございました。
私の班では、善通寺市で一日を過ごすことを目的としたミニ冊子を作成しました。最初の段階では、善通寺市のあらゆる名所を紹介するカード型と善通寺市で一日を過ごすことを目的とするパンフレットの二つの作成案に分かれていました。結果的に、カード型の持ち運びやすさとパンフレットの情報量の多さというメリットのハイブリッドであるミニ冊子にたどり着いた時には、班全員の意見がまとまったように感じました。私はこの経験から仲間と協力することによって、自分が思った何倍も良い成果物を作り出せることを実感しました。
今回のインターンシップでは媒体を完成させるまでいろいろな話し合いをしました。最初は両大学共に初対面なこともあり、あまり、話すことができませんでしたが、回を重ねていくごとに少しずつ打ち解けあい、いろんな話をできるようになりました。話し合いの中で、難しかった点としては、誰に、向けて発信するかを決めるのが難しかったです。そこを決めないと、作るものも変わってくるので、そこをメンバー同士で時間をかけて話し合いました。結果として、誰もが親しみを持てる絵本ということになり、幅広いの人に知ってもらえる形となったので良かったと思っています。いろいろ大変でしたが貴重な経験ができてよかったです。
今回のインターシップについて学ぶことが多くありました。私は善通寺市に来て早1年経ちますが、善通寺市にはどのような場所があり、地域の人達とどうやって交流を楽しめるのかなど、調べないとまだ知らないことが多くありました。今後も地域の人達とふれあいながら善通寺市をより多くの人に知ってもらうため、私も善通寺市の魅力をアピールしていきたいです。 また、今回のインターンシップは香川大学の方々と合同でした。香川大学の人と協力して善通寺市について調べ、善通寺市ならではの魅力があることを知れて良い経験になったと感じました。他の大学生の方々と合同することで、知識が広がり、興味関心に繋がったと考えています。このような機会を今後も増やし、社会でも活かしていきたいです。
初めは香川大学の人とコミュニケーションが取れるか不安はありましたが活動を行っていくにつれコミュニケーションが取れるようになっていきました。 活動を行っていく中でどうすれば善通寺を知ってくれるのかを考えることで今までは普通にあるものと捉えていたものが誰でも楽しめることができるものと捉えるようになりました。

香川大学×四国学院大学×善通寺市　実践型インターンシップ企画

Cチーム　感想
今回の善通寺インターンシップでは香川大学の学生との共同企画であった為、他大学の学生としっかりと話をしながら進めていくことができました。本学とはまた違った特色をもつ学生の方々と１つの目標に向かって考えていくことが出来て、新たな気づきや学びを得ました。 私たちのチームでは「善通寺市民プール」をどのように集客化するかについてチラシで呼びかけることを決めました。素晴らしい施設や備品があり、料金もとてもお手頃で家族連れや学生など多くの年齢層が気軽に来やすい場所であることからもっと善通寺市民や近隣の人々に知ってほしいと考えたのが発端です。途中意見の違いから作成に困難を極めたり、連携の取り方にミスが発生し、作業期間が遅れたりといったトラブルにも見舞われましたが、最終的には一つのチラシを完成することが出来ました。 今回の善通寺活性化に本学や善通寺市だけでなく、香川大学の学生にも参入していただいたことでより多角的視点（市外からの視点）や自分達では気付けなかった指摘を得ることが出来ました。約1年間に渡る壮大なプロジェクトでしたが参加することが出来て良かったと考えています。将来就職などをしていくとより様々な考えや視点をもった人たちと共同でプロジェクトを進めていくようになると思います。今回はそれを体験することができ自身にとってとても有益な活動ができたと思いました。
今回参加させていただいたインターンシップでは地域発展に関わることができたと同時に他の大学との協働での活動であったのでさまざまな意見を交わすことができました。時には意見の食い違いや成果物への期限に追われていたこともありましたが、最後までやり遂げたことは自分たちにとって大変貴重な体験だったと思います。これらの体験をいろんな場面で活かしていければと思いました。
今回の善通寺市×香川大学×四国学院大学インターンでは学生自身が考え、計画し、実行することが求められました。私たちの班では善通寺市のプールをアピールすることにしたのですが、どんな個所をアピールするのか、媒体は何にするのか、交渉は誰がするのか、など様々な問題が生まれてきます。香川大学とは距離も離れており、対面での話し合いも月に1回程度でした。その中でもLINEなどを使いながら話し合いをすすめ、善通寺市役所の方々の協力も受けながら、最終的には形にすることができました。 今回のインターンシップでは自発的な行動、仲間との協力の大切さなど様々なことを学び、身に着けることができました。次回もこのようなインターンシップがあれば参加してみたいです。
私はインターシップで、善通寺市民プールの宣伝チラシを作成しました。何回かの試行錯誤の後、工夫を凝らした素晴らしいチラシが出来上がりました。私は市規模で皆で協力し、何かをつくったことがなかったので、いい経験ができました。今後の善通寺の活性化に繋がれば嬉しいです。
私はこのインターンシップで、当初2大学の学生同士でコミュニケーションをとることが難しいと感じていました。対面で話す機会が限られており、初対面だったこともあり、なかなか意見を言い出せませんでした。しかし、回数を重ねると、対面やリモートでの会議で意見を出すことができるようになり、チラシが完成した時は達成感がありました。今回のインターンシップでは、新たな善通寺の魅力や連携の難しさを学ぶことができたので、これからの様々な活動に活かしていきたいです。